



CM

# 神奈川県環境学習リーダー 連絡会ニュース

2002年  
2・3月

No. 25

## 役員会報告

### 2月役員会(2月14日) 13年度第10回役員会

1. 日本国連環境財団の説明(JAPAN UNEP 青木さん)・国連と関係ないことが判明
2. 会費未納者の確認 現在(24名)
3. 環境科学センター環境実習室の利用(子ども教室)について
  - ・計画書提出状況の確認
  - ・スケジュール確認
4. アンケートの最終集計版の説明
5. 意見交換会(3月2日)の議題・議事進行を打合せ
6. 市民環境活動報告会(2月16日)の役割分担
7. 6月「環境展」出品内容(実行委員会結成)
8. 総会準備(総会要領の作成・役員立候補状況)
9. 連絡会ニュース25号 編集方針確認

カット：タチツボスミレ  
たくさん種類のあるスミレの中でも日本全土、道端、あせ道、草原、野山どこでも見ることができる。タチツボスミレが陽だまりで咲き始めると他の花もそろそろ開花の準備。  
花期：3～5月

### 3月役員会(3月14日) 13年度第11回役員会

1. 環境学習アドバイザー受託(県企画)方法について検討
2. 意見交換会(3月2日)の総括(別掲)
3. 子ども環境体験教室開催(環境科学センター実験室利用)について(別掲)
  - ・スケジュールと内容の確認
4. 総会資料確認
  - ・開催案内と13年度活動報告(別掲)
5. 14年度 活動方針作成に関する意見交換(次回取りまとめ)

## 第8回市民環境活動報告会 開催される

去る2月16日に第8回市民環境活動報告会が環境科学センターと当連絡会の共催で行なわれました。今回の場所は横浜の県民活動サポートセンターであり、参加者の一人は「場所が便利なところだったので仲間以外にも声を掛けやすかった」と語っていました。

以下に開会の挨拶、閉会の挨拶および発表案件を紹介します。

### 開会の挨拶

神奈川県環境科学センター 所長 片桐 佳典

本日は、この市民環境活動報告会に、多くの皆様方に参加いただきましてありがとうございます。

この報告会も今回で8回を迎えるわけですが、これまでは環境科学センターの養成講座を修了された環境学習リーダーの方々を中心に、県内各地で取り組んできた地域における自然環境や身近な生活環境の問題から地球規模の問題まで、様々な環境保全活動の成果を報告していただき、ご来場の皆様と意見交換する場として行って参りました。

環境科学センターでは、今年度から、こうした皆様方の取り組みを支援するための環境実践者支援講座を開くとともに、実習室を整備し、皆様方にご利用いただけるようにいたしました。

複雑化・多様化した環境問題を解決するには、

県民の皆様方のご協力が必要となります。

県内には、たくさんのグループの方々、環境保全活動に取り組んでおりますので、今回からは、地球温暖化防止活動推進員や環境カウンセラー協議会の方々にも、加わっていただくことになりました。

お互いに交流することにより、環境保全活動の輪を大きくして頂きたいと思っております。

本日は、海をつくる会の坂本昭夫事務局長の基調講演を挟みまして、自然保護、ごみリサイクル、また家庭での環境管理など幅広い分野の報告を予定しております。

4時までという長時間ではございますが、実りある報告会にしていただきますよう期待しております。

それでは、活発な意見交換のもと、この報告会の大いなる成果を期待いたしまして、私の挨拶と代えさせていただきます。

(4頁に続く)

## 平成14年度「総会」開催のご案内

代 表 清 水 幸 夫

下記の通り平成14年度「環境学習リーダー連絡会の総会」をご案内いたしますので  
万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1. 総会案内

日 時 平成14年4月20日(土) 13:00～15:00(予定)

場 所 神奈川県環境科学センター 2階

議 題 1)平成13年度 活動報告・会計報告・監査報告

2)平成14年度 役員選任

3)平成14年度 活動計画案・予算案・規約改定案(下記参照)

\* 尚、「総会」終了後、研修会・懇親会を予定していますのでご出席願います。

研修会 15:10～16:10

演 題 環境科学センター「環境実験室」見学

懇親会 16:30～ \*会場 未定 \*会費 (2500円前後)

#### 2. 出欠の連絡と委任状

「総会」の出欠を別添ハガキで4月8日(月)迄にご連絡願います。

万一、ご欠席の場合は、上記ハガキに下記「会の名称変更」案の賛否に答えて議決権の  
委任を明示して下さい。

#### 3. 重要議題(会の名称の変更)

役員会から当会の名称変更を提案いたします。

委任状提出の方も「賛否」で答えてください。

##### 会の名称変更(案)

神奈川県環境学習リーダー会 ( ← 神奈川県環境学習リーダー連絡会)

変更理由:(「連絡会」をはずす理由)

- 1) 対外的な活動が活発になってきて、「連絡会」は馴染まなくなっている。
- 2) 「環境」問題が注目されてきている中で、行政・財団・企業から活動助成金が出されているが、それを受けるためには「連絡会」では難しい。
- 3) 将来、NPO 法人取得のためには、「連絡会」では認められない。
- 4) 「神奈川県環境学習リーダー」が認知されつつあるため大幅改訂を避け、且つアンケートで上記名称案がトップグループにランクされた。

#### 4. 平成13年度の活動実績について

次ページに今年度の活動報告を掲載しております。

14年度の活動方針・予算案等の詳細は総会席上で報告されます。

以 上

環境学習リーダー連絡会  
平成13年度 活動報告

**1 . 役員の活動**

定例役員会 毎月 1回 特別役員会 1回(4月9日)  
「連絡会ニュース」発行 隔月発行(6回)  
「連絡会」案内パンフレット作成(カラ・4面)  
環境科学センター訪問(5月18日 1月10日 情報・意見交換)  
会員研修・交流会開催  
第1回 自然観察会 11月10日~11日 参加者14名 三浦海岸  
第2回 意見交換会 3月2日 参加者18名 横浜市民活動支援センター  
アンケート実施 11月 回答 47名  
(アンケート結果 連絡会ニュース24号に掲載)  
「全国ボランティアフェスティバルかながわ」(9月22・23日)  
・実行委員会幹事会に参加 環境グループイベント企画、実施  
パネルディスカッション・展示ホール(実演とパネル展示)  
「市民環境活動報告会」の開催 2月16日(土) かながわ県民センター  
(環境科学センター共催) ・終了後、交流会の開催

**2 . 環境科学センター事業への協力活動**

酒匂川水棲動物の調査(酒匂川探水隊)  
環境実践者支援講座 講師派遣  
環境モニタリング(タンポポ・ツバメ・ジョロウグモ調査、NO<sub>2</sub>測定)  
休日に於けるセンターの運営(展示コーナー説明、学習相談等)受託

**3 . 他活動団体等との連携・支援活動**

環境保全活動に関わる他団体(ストップ温暖化ネットワーク・森林づくり公社  
・海岸美化財団等)との情報交換 [環境ネットワーク]の結成  
秦野市エコリーダー養成講座 講師派遣  
地球温暖化防止活動推進員意見交換会 各地区まとめ役  
「あつぎ河川ふれあいまつり」への協力  
小・中学校の「環境学習」に対する支援  
地域生涯学習の企画・実施(神奈川区・金沢区・港北区等)  
地域環境保全活動グループへの参加  
「湘南地区県民懇談会」(湘南なぎさ事務所主催)に参加

**4 . 部会の活動(内容 別掲)**

ケナフ部会 環境モニタリング部会 廃棄物・リサイクル部会  
エネルギー部会 自然環境部会

**5 . その他の活動**

9期生(環境実践者養成講座修了者)への「連絡会」入会説明 24名入会

以上

## 閉会の挨拶

市民環境活動報告会実行委員長 内藤 克利  
片桐環境科学センター所長様の開会挨拶を頂いた後、順次課題発表を行ったが、今回の報告会は、環境カウンセラー1名及び県地球温暖化防止活動推進員1名からそれぞれの異なった視点での課題発表があり、この報告会を盛り上げて頂いた。

基調講演では、海をつくる会事務局長から「自分の出来る事から始めるダイバー集団」の表題で活動における多くの苦労話をされ、我々にとって非常に価値ある内容であった。海底が最終ゴミ集積所であることを再認識させて頂いた。ここに改めて謝意を表したい。

環境学習リーダーは6名が課題発表を行った。時間も一人20分と少ない持ち時間ながら、それを有効に活用された発表となり多くの活動指針を示す内容でした。

以前、ある方が連続性のある活動を是非して頂きたいと言われました。連続性を生かすにはどうするか考えておりましたが、今日の発表を聞いてその答えが分かったようです。

環境学習リーダーは、色々な活動を通じて多く

の人々に接します。その時の目的は何でしょう。より多くのリーダーを養成し、それが自分の分身となり、活動拠点を増やすことだと思います。課題発表されている方々はそれを実践されようとしておられると感じました。そして自分自身をより研鑽することでレベルアップを図ることが我々に与えられた課題だろうと感じました。各グループリーダーはいかにして分身を作るかを考えて居られるなら、この報告会から吸収して頂きたい。

今回の参加者は約140名でしたが、環境学習リーダー連絡会のメンバーは約60名でした。会員数から見ても少なすぎます。土日は活動日として多忙でしょうが、仲間が発表している報告会には是非参加して欲しい。そしてもっと盛り上げて欲しい。これが私の願いです。

尚、発表に対する質問時間が少なくて申し訳ありませんでした。より多くの方々にと考えたのですが、時間内に行うのも主催者の仕事でありご容赦下さい。課題発表者は質問がある場合はお手数ですが、対応して下さい。どうも有難うございました。

## 8件の発表と1件の基調講演

「西丹沢における美化活動」

西丹沢の自然にふれあう会 齊藤 誠

「ゴミは美観だけでなく、自然界の生物システムを破壊する」という認識の基に、二十数名のボランティア団体が行なっている避難小屋の清掃を含む西丹沢の美化活動の報告。

「小田原の自然(生き物たち)」

日本自然保護協会自然観察指導員 常盤 博

小田原の自然とそこに住む生き物たちは、四季の移りにもない、どんなものがどのように生きているかを調査した。今回はその調査の一部の報告。

「横浜市の新人教師への地域理解研修会の実施 - 総合学習へのトレーニング - 」

(NPO法人)かながわ環境カウンセラー協議会 武部 正彦

横浜市の新人教師は県外からの人が多いので、同市には新任年度に野外へ出て地域の自然・歴史などを学ぶ研修があり、研修のコーディネーターと講師を努めた。この研修の目的、意義などの報告。

「ISO14001の取り組み - 企業活動から家庭での活動へ - 」

神奈川県地球温暖化防止活動推進員 吉田 全男

市民の立場で地球温暖化防止活動を推進するために、企業で行なったISO14001の取り組み経験を基にして、従業員の家庭でのエコ度調査を行なったことの報告。

「環境行政とのパートナーシップを目指して - 県内各市町村環境行政調査 - 」

かながわ女性会議環境政策ネットワーク研究会 齊藤 洋子

行政に提言する目的で、県内37市町村が取り組んでいる環境行政について各市町村に質問して調査した。今回は1997年度と2000年度の調査結果の報告。

基調講演「自分の出来る事から始めるダイバー集団」

海を作る会 事務局長 坂本 昭夫

海をつくる会は海が好きなダイバーの集まりであり、横浜山下公園前の海の清掃を 21 年前から続けている。最近はその他に、横浜野島での定点観測、芦ノ湖底や河口湖底の清掃、横浜港へのワカメ植付けの試行、東京湾での自然観察会など、活動が多岐になっている。

今回は、それらの活動内容が紹介された。横浜山下公園前の海の清掃では、昨年の場合、参加者は 380 名の規模であり、拾い集めたゴミは 2 トンになったとのこと。

「37 市町村分別カレンダーから見えるもの（第 2 報） - 有害ゴミ処理について - 」

神奈川県環境学習リーダー、GO3 の会 秋吉 斉

県内 37 市町村のゴミ分別カレンダーを過去 3 年間収集し、分別項目とその推移を分析している。今回は、家庭有害ゴミ（乾電池、蛍光灯、殺虫剤等）を中心にした報告。

「横須賀のリサイクル - 現在と未来 - 」

横須賀市環境審議会市民委員 野崎 章子

市民の日常生活に密着した環境問題として家庭ゴミをとりあげ、地元横須賀市のゴミの現状（収集量と収集後のリサイクル経路）と将来の課題の報告。

「持続可能な社会に向けてドイツからニッポンへ - 環境首都創造へのこころみ - 」

ふるさと環境市民の会 安藤 多恵子、西 寿子

ドイツのフライブルク市がどのようにして環境都市 No.1 になったかの報告と、日本の環境都市コンテスト（第 1 回を実施中）の概要紹介。「環境保護の考え方が、日本ではゴミを問題にするが、ドイツでは町作りを基本にする」と両国の違いを語っていた。

## 子ども環境体験教室の開催に向けて

連絡会ニュース No.24 で既報の通り、環境科学センターは平成 14 年度の環境学習事業の一環として「子ども環境体験教室」の開催を計画し、その講座担当を当連絡会に要請されました。役員会ではこの要請に対して、請ける旨の回答をすると同時に各部部长と事業担当役員とでプロジェクトチームを結成し、取り組むことに決定しました。

2 月 1 日（金）に第 1 回会議を開き、本講座の主旨や改装された実習室を説明し、各部会の取り組み方等を討議しました。2 月 14 日までに各部会の学習内容の具体案を提出し、環境科学センターの意向を伺い、開催回数及び日程等を調整しました。

3 月 2 日（土）にはセンターから細根副主幹にも出席していただき、第 2 回の調整会議を開催しました。当初 12 回を年間を通して開催する予定でしたが、センターの他の講座との兼ね合いから開催回数は 10 回、スケジュールは 6 月 29 日から 9 月 8 日までとし、主として土曜日、日曜日を使い、8 月の夏休み中は平日も開催することになりました。なお、連絡会の部会としては、廃棄物・リサイクル部会が GO3 の会で代行され、自然環境部会の学習内容が環境モニタリング部会と一部重なるところがあるため今回は環境モニタリング部会が取り組むこととしました。また本講座は原則として環境科学センター内実習室を中心に実施することが確認されました。1 回の教室の募集人員は約 40 です。

今後は PR 用パンフレットの作成、県のたよりに

よる広報、子どもエコクラブへの PR、募集事務等は環境科学センターが主管されますが、当連絡会、各部会関係者の皆様のご協力をお願いします。

（事務局 近藤）

【参考】日程表

6 月 29 日（土）ペーパークラフト（ケナフ部会）

7 月 20 日（土）子ども ごみ探検隊（1）

（GO3 の会）注 1

21 日（日）調べてみよう身近な環境（1）

（環境モニタリング部会）

28 日（日）楽しい省エネ教室

（エネルギー部会）

8 月 6 日（火）調べてみよう身近な環境（2）

（環境モニタリング部会）注 2

9 日（金）調べてみよう身近な環境（3）

（環境モニタリング部会）注 2

20 日（火）子ども ごみ探検隊（2）

（GO3 の会）注 1

24 日（土）楽しい省エネ教室

（エネルギー部会）

9 月 7 日（土）ケナフ染め（ケナフ部会）

8 日（日）調べてみよう身近な環境（4）

（環境モニタリング部会）

注 1：子ども ごみ探検隊（1）（2）は連続して参加される事が望ましい。

注 2：身近な環境（2）（3）は連続の講座です。

# 13 年度部会活動報告

## 環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

### 1. 「県民参加による環境モニタリング手法」の実践活動

KERC が当連絡会の協力を得て平成 10 年度以来進めて来た表記の環境モニタリング手法の開発は、12 年度を以て終了することになった為、12 年 9 月、同手法を実践に活かすための組織として当部会が発足した。そのため 13 年度の同手法の実践活動は当部会にとっては初年度の体験となるものであり、それだけに問題点も多かったと考えている。その代表的なものとしては、調査結果に基づく「環境マップづくり」体制の遅れ、調査活動を効果的に進めるための「調査票」の不具合、当連絡会員、一般市民への参加 PR の不足、等が挙げられるが、ここで取り上げた 3 点については、平成 14 年度に出来るところから改善を図り、実践していく計画である。

尚、平成 13 年度同手法関係で実施した事項は次のとおりである。

#### 1) 自然度調査

- a. タンポポ : 主として 4 月調査、参加者 : 19 名  
「セイヨウタンポポ」件数 : 264  
「カントウタンポポ」件数 : 1,108
- b ツバメ : 主として 6 月調査、参加者 : 28 名  
「ツバメの巣がある」件数 : 102  
「ツバメを見た」件数 : 94
- c. ジョロウグモ : 主として 10 月調査、参加者 : 7 名  
「ジョロウグモがいた」件数 : 273

#### 2) NO<sub>2</sub> 調査

##### a. 6 月

サンプリング : 5 月 31 日 ~ 6 月 1 日の 24 時間

.....

## 廃棄物・リサイクル部会

事業担当(廃棄物・リサイクル部会) 内藤 克利

今年度の会合は数回県民活動サポートセンターにて行い、その資料は上野部会長が準備されたものを主に使用した。その内容は専ら廃棄物に関する法律及びリサイクル手法の勉強会であり、現地調査とかの外部との接触は殆ど行っていない。

7 期生中心で運営している G O 3 の会との合同会合も行ったが、実際に活動している会との融合は難しく、且つ、上野氏も仕事の都合で辞意を表明された。従って当部会は、来年度の活動そのものを検討

地点数 : 176 (自宅庭、自宅周辺、交通量の多い所)

分析測定 : 6 月 9 日

#### b. 12 月

サンプリング : 12 月 6 日 ~ 7 日の 24 時間

地点数 : 276 (自宅庭、自宅周辺、主要幹線道路の高濃度地点)

分析測定 : 12 月 15 日

### 2. 「酒匂川水系探水隊」活動の実施

KERC が平成 13 年度から推進することになった「酒匂川水系生物調査計画」に協力するとともに水系生物学の研鑽を深めることを目的として、部会内に斉藤昭一(1 期) 杉崎茂(3 期)の両氏を中心に「酒匂川水系探水隊」を発足させ、4 月 8 日の第 1 回勉強会をかきりに、計 7 回の探水活動を実施した。尚、同探水隊の活動には、毎回、KERC の石綿専門研究員のご指導をいただいている。

### 3. 学習教材づくり

環境モニタリングの普及促進のため、7 月 7 日、学習教材づくりをテーマとした検討会を実施したが、平成 14 年度から KERC において「子ども環境体験教室」を開設することになり当部会としても同教室に参加するため、2 月 23 日、「学習研究会」を発足させて対応を図ることとし、モニタリングの分野別に設定した教科ごとに、テキストづくり、カリキュラムづくりを進めることとする。

### 4 「第 10 回ボランティアフェスティバルかながわ」への協力参加

9 月 22 日・23 日に開催された標記フェスティバルの展示コーナーに当部会としても、多分野における実績を示した「環境マップ」や、絶滅が危惧されている「小田原メダカ」(3 期の杉崎茂氏提供)、「エコアナライザー」等を展示した。

中である。

廃棄物・リサイクルの問題は避けて通れない身近な問題である。焼却場、最終処分地の問題から、廃棄物発生抑制もあり、廃棄物のリサイクル手法も進みつつあるが遠き道である。しかしながらリーダー各位の地域での活動は数多くあり、当部会の方向性を明確にしたい。



## エネルギー部会

部会長 北村 博子

エネルギー部会の13年度の活動は、“ムダなエネルギーを使わない、賢いエネルギーとのつきあい方”の普及・啓発のための、小学生～親子を対象にした「省エネ教室」開催に焦点を絞り、小・中学校総合学習支援への足掛りとした。一方、幼児・児童向けの地球環境問題・省エネ啓発のための“エコ紙芝居 - すてた味噌汁のゆくえ ” “ エコいろはカルタ ” を自主制作。“親と子の楽しい省エネ教室”で好評を得、二つの小学校からもエコカルタ等の依頼が入った。又、“2002ENEX 展”の“省エネ共和国”ブースに出展、石川県環境政策課、三鷹市、川崎市の小学校の先生方からエコカルタの引き合いを受けた。

他方、14年度へ向けて、“省エネカレンダー（仮称）”と、小学校総合学習及び地域生涯学習に向けた、“省エネ学習”の案内書とメニュー作成に入った。

1. 横浜市環境保全活動助成金申請協力（獲得）
2. “親と子の楽しい省エネ教室”開催協力

## ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

環境科学センター及び環境学習リーダーのご協力を得て、ケナフ部会の活動も3年を過ぎました。簡単に本年度の主な活動内容は報告させていただきます。

- 3/25 ケナフ畑の畑起し
- 5/16～22 平塚市市民プラザでの「ケナフフェア」展
- 6/2～17 横浜市「環境月間パネル展」に出品・・・横浜市市民活動支援センター
- 6/24 エコライフ横浜「ケナフ講演」早野 紙すき説明 ケナフ部会協力
- 7/15 稲垣日本ケナフ協議会会長講演「紙資源としてのケナフ」環境科学センター
- 8/2 平塚市消費生活センター・平塚市市民活動推進課共催、夏休み親子消費者講座「ケナフで素敵な葉書を作ろう（非木材を使おう）」

## 自然環境部会

部会長 内藤 克利

連絡会行事のひとつとして、昨年11月に自然観察会を開催した。三浦海岸の剣崎地区の海岸散策で岩を見て地球の誕生を考えるテーマであったが、初日は雨模様で屋外での活動も不十分であり、専ら宿での会話が多くなった。斉藤昭一さんの三浦半島の生い立ちについての講義を拝聴し、翌日はよい天気

子供たちは、“節電コンセント”作りに熱中した。「物作り」は子供たちにとって、新鮮な体験のようであった。

- 8月19日 神奈川県民サポートセンター
- 11月25日 同上
- 2月3日 同上

3. “省エネ共和国”(省エネルギーセンター)建国協力
4. “2002ENEX 展” “省エネ共和国”ブース出展協力
5. 横浜市神奈川区、“友・遊まちづくりフォーラム”展示指導・協力
6. 横浜市緑区サークルのつどい展示・出展
7. 自主制作  
“エコ紙芝居 - すてた味噌汁のゆくえ ” “ エコいろはカルタ ”  
9 期終了の方々等が数名、部会に参加されることになった。自然エネルギー関係の専門家もいらっしゃる。当部会も、来年度の活動に、幅と厚みの増すことが期待される。

- 8/7 平塚市消費生活センター・平塚市市民活動推進課共催、夏休み親子消費者講座「ケナフで素敵な葉書を作ろう（非木材を使おう）」
- 8/23 愛川町役場主催、夏休み親子消費者講座「ケナフで素敵な葉書を作ろう（非木材を使おう）」指導（愛川町文化センター）
- 8/26 会員例会、ケナフ染め講習・レシピ作り及びボランティアの展示打ち合わせ
- 9/22、23 全国ボランティアフェスティバルに活動況の展示及び紙すき実施
- 10/14 エコライフ横浜で「ケナフを使った葉書作り」指導
- 11/30 会員例会、ケナフ染め講習・レシピ作り及びボランティアの展示打ち合わせ
- 12/1 茅ヶ崎市浜須賀小学校3年生約40人に紙すき指導
- 1/30、2/7 聖ヨゼフ小学校2年生80名に紙すき指導

で朝食前に海岸を散策し、その証拠をいくつか採取した。朝食後は二つのグループに分かれて行動した。大楠山方面は森さんの案内で、剣崎地区は斉藤さんの案内で江奈湾干潟、毘沙門洞窟を見て、宮川公園の風力発電所を横目に見ながら帰路についた。参加者も10余名と少なかった。

一般的に自然観察と言えば、数多くの対象があり、会員諸氏の希望に添えなかったかなと反省しております。

## = 豆知識のページ =

# 地球温暖化防止対策制度の現状 京都議定書の 批准を目指して

京都議定書の批准の目標時期（今年 6 月）が迫っています。そこで、京都議定書と日本の地球温暖化防止対策制度の現状をまとめました。

### 京都議定書の骨子

今から 5 年前（1997 年）に世界の国々が京都に集まって国際会議を開催しました。それが第 3 回地球温暖化防止国際会議（COP 3）（注-1）であり、そこで決議されたものが京都議定書です。

京都議定書の内容は；

- ・先進国の二酸化炭素排出量を 1990 年の値に比べて（今から 5 年後の 2008 年から 5 年間に）X%減らす（注-2）。

X%は国別に決められていて、

日本	6%
米国	7%
EU	8%
ロシア	0%、など

- ・途上国には削減義務はありません。
- ・その他にも決議事項がありますが、記述を省略します。

### （注-1）地球温暖化防止国際会議（COP）

COP は Conference of the Parties の略で、気候変動枠組条約締約国会議と訳されていますが、堅苦しい名前なので、ここでは地球温暖化防止国際会議と呼びます。7 年前（1995 年）に第 1 回会議（COP 1）がベルリンで開催され、以降毎年開催され、昨年は第 7 回会議（COP 7）がマラケッシュ（モロッコ）で開催されました。今年の COP 8 は 10 月にニュー・デリーで開催する事が決まっています。

### （注-2）削減率

現在の排出量からの削減率ではなく、1990 年の排出量からの削減率です。

日本の場合、現在の排出量は 1990 年に比べて 7% 増えています。従って、日本が現在から削減しなければならない量は 6% + 7% であり、これは容易な値ではないでしょう。

### COP 7 までに決まったこと

COP 3（京都会議）から昨年の COP 7 までの会議の主要な点は、京都議定書を実施するためのルールを決める事でした。夫々の国の利害・事情のために、なかなか決まらないルールがありまし

たが、COP 7 までにすべて決まりました。

ルールが決まった事から、各国は京都議定書の批准に向けて動いています。

なお、米国は、京都議定書を批准しない事を昨年表明し、米国独自の「温室効果ガス削減計画」を今年 2 月に発表しました。この計画は京都議定書より緩い内容になっています。

### 京都議定書の発効条件

京都議定書が発効するためには、下記の 2 つの条件がともに満たされる必要があります。

- （1）55 ケ国以上が批准する。（COP に参加している約 180 ケ国のうち、55 ケ国以上）
- （2）批准した先進国の二酸化炭素排出量合計が、COP に参加している先進国の二酸化炭素排出量合計の 55% 以上を占める。（1990 年の排出量で）

この条件のうち、（1）の「55 ケ国以上」は達成される見通しです。（2）の「55% 以上」については、36% を占める米国が批准しないと表明しましたが、米国抜きでも「55% 以上」が達成できる見通しが立ちました。

### 日本の制度

今年 8 月に南アフリカのヨハネスブルグで開催される世界首脳会議（環境開発サミット）において、京都議定書発効記念式典が予定されています。これに間に合わせるために、京都議定書の批准は、手続き上、今年 6 月に行なうことが必要です。

[1] この背景のもとに、政府の地球温暖化対策推進本部（本部長・小泉首相）は去る 2 月に温暖化対策の基本方針を決定しました。

その方針には「現在の通常国会で京都議定書の承認を得る（批准）とともに関係法案を改正する」と記されています。

[2] 関係法案の一つである地球温暖化対策推進法改正案は去る 3 月 29 日に国会に提出されました。

この改正案の主要点は、政府が京都議定書目標達成計画を定めることです。すなわち、削減の具体的方法、スケジュールを決め、実行に移すことが含まれています。その他には、「NPO 法人を都道府県地球温暖化防止活動推進センターとして指定できる」という項目もあります。

[3] 地球温暖化対策推進大綱（改正版）が去る 3



月 19 日に政府決定されました。この大綱は京都議定書の内容を達成するための対策の全体像を示しています。

大綱の中で、二酸化炭素の排出源別の削減量が決められています。排出源には産業部門（工場）、運輸部門（交通機関）、民生部門（家庭・事務所）があります。民生部門では、家庭でのエネルギー

使用の削減が求められています。テレビを見る時間を 1 日 1 時間減らす、白熱灯を蛍光灯に変える、などが含まれています。

削減目標を達成するために、国民が意識を変えて、1 人ひとりが自分の事として生活様式を変えるなどの削減努力が必要でしょう。



# アリスセンター



アリスセンターは市民が主体となる地域社会をめざして 1988 年に発足した民間の非営利組織で、99 年に特定非営利活動法人(NPO)になりました。事務局の川嶋康子さん(1 期)にアリスセンターについてうかがいました。

**【Q】アリスセンターって何ですか？**

**【A】** 県民・市民の情報収集をし、まちづくりを応援するために組織されたもので、法人になったとって活動に変わりはありません。

**【Q】センターの活動の柱となるものは？**

**【A】** 神奈川には、環境・福祉・人権・平和・国際協力など、さまざまな課題に取り組み、地域から社会を変えていこうとする多くの人々がいます。自らの手でまちづくりを担う市民活動を応援します。

また、多様な価値観、多様な利害、多様な組織のあるなかで市民が主体となってまちづくりをするとき、立場を超えて合意形成していくことがとても大切です。地域にそくした合意形成の手法を開発します。

市民が主体となる地域社会を実現するためには新たな社会システムや制度を提案・実践していく市民の力が求められます。市民団体とともに政策提案をおこなっています。

**【Q】具体的な例はありますか？**

**【A】** 相模川のネットワークがあります。相模川・中津川・小鮎川の三川合流点の河川敷では以前から不法投棄が行なわれ、夜間には違法駐車が続いていました。台風で大洪水に流された車が下流でゴミとなり、ようやく行政も動きだしました。市民団体は、河川敷の夜間の使用を避けるため、仕切りを付けるよう具体的な提案をしました。不法投棄の廃車の処理費用や警備費用の負担、地域住民や商業地域の意見を聞き話し合いを重ねな

がら、現在は夜間の使用禁止を行なっています。この場合の行政とは県ですが、行政を動かすために、地道な観察と行動を市民の方で重ねてきました。

まちづくり・合意形成・政策提案がうまく展開した例だと思います。

**【Q】センターの事業を教えてください**

**【A】** センターには県内のさまざまな団体からニューズレター等の情報が集まりますし、まちづくりに関する行政や企業の動きも情報として寄せられています。定期的に情報誌やインターネットで発信しています。

まちづくりの講師、調査の専門家や資金援助など幅広い活動を行なっています。

**【Q】スタッフにその専門家がいますか？**

**【A】** センターを支えている幅広い人脈の中で対応する専門家を紹介したり、対応したりしています。

3 人のスタッフの得意分野がそれぞれ違うので対応できることもあります。

**【Q】組織について**

**【A】** 会員はおよそ 350 名。正会員と準会員、賛助会員がいます。センターの情報は無料のメールマガジンで掲載しています。利用してください。

アリスセンター

〒231-0001

神奈川県横浜市中区新港 2 - 2 - 1

ヨコハマワールドポーターズ 6F

NPO スクエア内

TEL 045-212-5835

FAX 045-212-5826

URL <http://www.jca.apc.org/alice/>

e-mail [alice@jca.apc.org](mailto:alice@jca.apc.org)

## 第2回意見交換会 開催

3月2日(土)1時30分から予定終了時刻を過ぎる5時まで、横浜市民活動支援センター4階会議室で、18名の会員参加を得て、当環境学習リーダー連絡会2回目の意見交換会が、貴重な意見を交えて活発に行われました。

まず、清水代表から「環境活動実践者養成講座の修了者を迎え、これからの当環境学習リーダー連絡会の発展のために、忌憚のない新しい意見を活発にお願いしたい」と挨拶があり、参加者の自己紹介に引き続き、児玉事務局長からは、リーダー連絡会の会員数の現況「191名で県下有数の人数の環境団体となった」旨の報告と、13年度活動概況についての説明があった。

次いで、アンケート調査担当の木本氏から、問題提起として、アンケート調査の集計結果概要について説明があり、意見交換会に入った。

### 1. 会の名称について

助成金を獲得するためにも、名称から「連絡会」は削除する(以下各意見要約)

- ・会のスタートは懇親会で「連絡会」という経緯があったが、「具体的な活動」をするには相応しくない。「連絡会」はNPO取得、助成金獲得のためにはそぐわない。
- ・出発時は「環境学習リーダー養成講座修了者連絡会」といっていた。県が「環境学習リーダー」という名で人材名簿に専門領域を登録したのが、始まり。良い名称がなかったのが実態。
- ・県が「リーダー」をたててやらないと「促進」しないということで名前をつけたのだと思うが、「リーダー」は市民と遊離してしまうのでは。「協議会」「推進協会」がよい。
- ・出発点を確認し、会の目的を規約で再確認して、その目的内に留まるのか、それ以外のことを更にやるのかを話し合ってからにすべき。
- ・会員相互の研鑽が大きな目的だったはず。その目的を変えるのか否か。活動は何をするのかによって名称は決まる。
- ・名称は、周囲のものが説明なしに分かるものが多い。「協議会」は少し違うようだ。
  - \* 協議会：人が集まって、相談する会。
  - \* 協会：人が集まって、自主的に活動する会。
- ・目的を決め、進む方向を検討してから、名称を考えるべき。
- ・「親睦」「啓発」は事業としてやるのではなく、活動の中で自ずからついてまわるもの。
- ・NPOでは「内部研鑽・親睦」は削除される。
- ・県は地域のリーダーを育てた認識がある。
- ・「環境学習リーダー」は認知されてきている。更に知名度を上げる必要がある。
- ・「リーダー」は9期からはついてないが、削除を検討すべきではないか。

・「環境学習リーダー」は認知されている。「リーダー連絡会」そのものの存在が知られてなかったのがやっと認知され始めた。認知度からすれば、また変えて定着するには時間がかかる。「リーダーの」です」で通じるようになった。

・「実践者養成講座」を「リーダー養成講座」に変えて貰いたい。

・「協会」は一杯ある。「リーダー」は余りない。「協会」は何の「協会」かということになる。

・これからの活動の方向によって名称は変わる。会の大きさに比べ、実活動がそっていない。

\* 東京都は「環境学習リーダー」であり、同期の人でNPO「環境学習研究会」を設立。

### 2. 活動のあり方

#### 個人活動

・地域で組織を作ってやっている人、部会と同じような活動をやっている所がある。

・部会活動には費用が出るが、グループとして活動している所には費用は出ない。

・自然系は個人活動が基本で活発、NACSJ(日本自然保護協会)など。

・力を合わせてやることで組織の力になる。

#### 部会活動

・会の部会活動に対する思いが今一つ不明。

・部会を中心に組織的に活動を活発化させたい。

・修了者で活動していない人の取り組みは？

#### 対外発表

・情報発信事業をもっとやるべき。

・環境活動発表会年2回を提案。

発表数多く、時間不足、発表者の言いたいことが伝えきれていない。持ち時間を多く。

・活動発表機会を多く。セッション2つを提案。内容充実させパネルセッションも。質疑応答時間を多く。冊子は前もって配布を。

・6月には別の形で発信。パネルと実演・体験型の環境展を実施。(年2回の発信。皆様の協力を)NPO、来年度の課題。

KERCとの連携、子ども環境体験教室開催。

### 3. 広報

・内部への広報、活動強化のための広報。

中身強化・充実 37市町村へニュース配布。

・パンフレット(連絡会の案内)

行政・企業・自治会への売り込みメニュー作成し対応。売り込めるものの把握とPR。

### 4. 会費

・役員の交通費程度は会で。部会活動・広報活動も活発になり、来年度繰越金なし。

会費回収不能者の存在。連絡会運営は厳しい。

・事務局費用の応分の計上が組織の強化に。

清水代表から「役立つ意見をいただき、これからもよい会を作っていきたいのでご協力をお願いします」との謝辞で会を終えた。

# 新会員(9期)の頁

## ふるさと環境市民の会の活動

9期 西 寿子

私たち「ふるさと環境市民の会」は平成7年に設立されました。それまでにも、母親として食品添加物や合成洗剤等について学習してきましたが、日々悪化する環境に対し、多くの仲間と正しい情報を得ながら幅広く活動したいと考えたからです。

私たちのグループは「考えは地球規模で、行動は足元から。」をモットーに、ごみ、ダイオキシン、環境ホルモン、ペットボトル、川や海の自然環境など、様々な取り組みをしてきました。テーマは「ふるさとの水、風、大地などの身近な環境をみんなで考えましょう」「どうするゴミ問題！ダイオキシン！」「めざそうグリーンコンシューマー」「生ゴミリサイクルに挑戦！」「ソーラーッキング」など、自分たちが多くの人たちと考えるべきと思われる事を提案し、学習会の企画、運営をしてきました。

.....

## 出でよ 環境自治体・環境市民

9期 安藤 多恵子  
(ふるさと環境市民の会 代表)

持続可能な社会づくりをめざして、「環境首都コンテスト」を実施する運びとなった。

1989年より10年間にわたり、ドイツのNGOが全国自治体を対象に「コンテスト」を行い、優秀首都として選ばれたフライブルクやハイデルベルクは環境先進国としてつとに名高く、視察に訪れる人は今も年間2万人を超えるときく。

これと同じ試みを日本でもやってみようと、日本全国から11のNGO団体が京都に集結し、約2年間の準備やプレコンテストを重ね、今年3月末には、第1回の受賞都市が決定することになっている。

参加自治体の10位までを表彰し、今年度はとくに、地球温暖化対策と市民参画の2部門につき特別表彰をする。又先進的な事例は個別な表彰も行なう。ドイツでは10年間のコンテストの結果、

そんな中、環境先進国といわれるドイツを是非視察したいと考え、平成12年4月、企画、実行しました。そのドイツの様子をOHP40枚にまとめ、「環境先進国ドイツに学ぶ」として、出前講座などの学習会に使用しています。内容は、自治体や市民の環境への取り組み方、まちづくりなど多岐にわたっていますし、ドイツから持ち帰った、リユースしているペットボトル、布おむつ、エコハブラシ等の実物も見て頂けるので好評です。

このドイツが取り組んだ「環境首都コンテスト」を日本でも開催しようと、「第1回全国環境首都コンテスト」全国ネットワークが活動中で、私たちも幹事団体として参加、活動しています。

それと、環境教育が大切と考え、小中学校の総合学習用に環境学習プログラムを作成しました。「地球温暖化」や「ふるさとの川を見てみよう」など、年令に合った提案をし、自分たちの生活のあり方を考えてほしいと思っています。環境学習を未来学習という素敵な言葉に言い換えた人がいましたが、私たちも未来の循環型社会を創る為、みんなで楽しく活動して行きたいと願っています。



フライブルク

国全体の環境政策やエコロジー化が促進され、多くの自治体や市民の意識がより高まった。

日本でもそういう効果を期待したい。

約70の質問の中身は、大気汚染や廃棄物だけでなく、環境教育、交通政策、エネルギー、公園、景観、伝統文化など多岐全般にわたり、環境はまさにまちづくりそのものであることを改めて考えさせられる。

自治体にとっては勿論のこと、市民にとっても自分たちのまちのありようを、はじめて全国レベルの客観的な数字や事実によって、つぶさに知ることができる。準備の段階で非常に苦労した質問票づくりだが、いろいろな意味で役立ててもらえるものと自負している。

今、点数づけのまっただ中で、各々の担当者は徹夜でがんばっている。どこのまちが一番すぐれた環境自治体となるだろうか。どこが受賞しても、必ずそこには自立した環境市民がいることはまちがない。楽しみだ。

# 環境学習リーダー9期生 として考えること

9期 飯野 牧夫

今何ぞ環境かといえ、二年前に工学部の教授を定年でやめた際、このへんで普段気にかけている環境汚染の問題に取り組もうという気持ちになったからである。

実践者養成講座がきっかけとなって東京国際水素会議「アジアの水素時代を拓く」(2001.11.27 - 28)や、地域新エネルギーシンポジウム(2001.12.10)など、いろいろな会議や講座に出席した。いずれの講師のかたもライフ・ワークとして問題に取り組んでいるさまを私に印象づけた。大学の先輩の平田賢や後輩の山地憲治の名がそこにあったのも心強かった。横浜市の中央図書館には環境問題を取り扱った書物や雑誌は数知れずあるが、その問題の取り上げ方は10人10色である。環境問題は勉強の対象としても面白いと思うようになったのは図書館通いを通じての発見である。

環境問題の選び方も10人10色である。環境温暖化が現在とくに問題になっているが、全ての人がこれに関心を持たねばならぬと言ったものではない。この地球環境問題は重要で雄大であるが、

私にとっては、まず空気の汚染が気にかかる。これは地球問題よりは雄大ではないかも知れないが、人間にとって重大な地域問題である。ある人には、水質汚濁問題が重要であり、またある人には土壌汚染が重大な影響を及ぼすものとして映るであろう。しかし、これらすべては温暖化対策の軽視を意味しない。環境学習リーダー連絡会の環境モニタリング部会の会合に出席して、驚いた。「ケナフ部会」を貶す発言が出たからだ。その人にはケナフの知識がどの位あるのだろうか？ケナフには、いろいろ取り沙汰されている問題点はある。そうかも知れないが、トータルとして炭酸ガスを吸収するというメリットの方が大きいという判断に基づいて、環境学習リーダー連絡会の中にケナフ部会は現存すると私は解釈している。

現職は湘南工科大学機械工学科講師。



## 私の新しい道

9期 柳川 三郎

環境実践者養成講座で地球環境問題、ゴミ問題、化学物質、水質モニタリングほかの沢山の知識を得る事が出来ました。次は行動の時と成りました。

まず第一に、神奈川県環境学習リーダーの先輩達がどのように活動をされているかを、時間の許す限り一緒に体験して行きます。その活動のなかで先輩達の知恵を速く吸収し会得して行きたいと考えています。

地域の自治会長として、我がまちと自然との共生をめざし、一つの方策として地域の川をきれいにしてまいります。川のシンポジウムに参加し、さらに 広域の自治会長とともにきれいな川作りをやるうと提唱しはじめております。

スタートは3月17日(日)に川の土手・川原のゴミ清掃を行います。平塚市でも金目川をきれいにとの住民側の行動は始めてとして見て居られます。神奈川県では集めたゴミを収集してくれ

る事になりました。市や県へは当方から絶え間なく交渉をした結果です。

次に平塚市で実施している川の水質検査(BOD)を過去5年間のデータ分析を実施して行きます。

川をきれいにすること、水をきれいにすることは、住んでいる人々の心を豊かに、四季の変化は感性を育てあげて、人間性を高めて参ります。特に若い人が川の流れのなかから、すさんだ精神を消してくれ、豊かな人に成ると信じています。

このことは、一人ではなかなか実現が困難と考え、同じ志の人をいかに集合できるかが、未知の世界ですが、かくあるべきとの気持ちを長く継続して行くことの重要性を痛感しています。



# 「環境実践者養成講座」 受講所感

9期 石丸 博司

環境問題に対する私の関心は地球温暖化もさる事ながら健康問題や快適生活・自然環境の保全や資源循環である。それも地域社会の様々な人達と共に相互の問題意識を持ち寄り、目標を設定しながら地域の問題として取り組むことで、今の仕事(行政職員の研修)を通して取り組んで来ました。以下主な受講所感です。

第1日目・才木先生から「地球環境問題」、高橋先生から「環境教育論」について環境問題の科学的な知見からの広がりや根深さと教育教育の必要性を感じました。

第2日目・施設見学・「焼却工場」 横浜市内7箇所の中の最新鋭の大型施設。・横須賀市リサイクルプラザ「アイクル」は市民の分別収集段階から施設での合理的・生産工学的な施設、と取り組みの工夫の努力が感じられた。

両施設から感じたことは市民はこの施設を知っているのだろうか、またゴミを出すと大勢の人手と莫大なコストが掛かることも。資源循環社会の

.....

## 環境学習リーダー受講

9期 市川 文子

環境実践者養成講座に参加してみて、いろいろな角度からの視点、論点、取り組みを考えている人々に出会えて、私は大変感動しました。

しかし、地域に帰ると、環境問題について一緒に取り組み行動してくれる友達がいないのが実情です。

去年4月に「暮らしを考える会」という地球環境から地域の問題について話し合いや勉強会などをする実行委員を募ってみました。集まりはいまいちで、活動までにはいたっていません。

そこで、毎年11月30日に海老名市主催で行なわれている「市民と農業を考える集い」に参加して、みそ作り教室も募集されていたので、すぐに応募して体験してきました。その時に、安心して食べられるみそも作りたくて申し出てみたら、私を含め5名が集まり、それを2月28日に実践し

構築に向けて「焼却」「リサイクル」の機能だけの取り組みでは環境問題の取り組みには限界があること。社会のシステムとして、ライフサイクル(LSA)の観点から拡大製造者責任(EPR)と、市民のライフスタイルを含めての地域社会の変革が欠かせないと痛感しました。

第3日目・安部先生から「身近な化学物質」。消費者・生活者の立場から、環境リスクマネジメントとして取り組みの必要性を。・田村先生の実習「ネイチャーゲーム」から自己の感受性の大切さ。レイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー」をかいま見る思いがし、今後どう取り組むのが大変興味を感じました。

第5日目・渡辺先生からワークショップ。自分の問題意識からグループワークへ。大変な盛り上がり。改めてメンバーの熱心さとワークショップの面白さを感じました。さあ実践「アクションの環(輪)を広げよう！」

尚第8回市民環境活動報告会に参加して先輩たちの地道な取り組みに敬服しました。



ました。

今後もこのような技術の伝承を含め手作りをしたいと言うことでまとめ、毎月1回位集まることになり、サークルにして輪を広げていこうと言うことで立ち上げることになりました。サークル名はこれから考えます。

3月13日には豆腐作り・・・いずれ畑を借りて無農薬の野菜や大豆作りに挑戦したいとか・・・。

4月3日は草もちづくり。よもぎは各自で摘んで来る、と言うことでスタートする予定です。このような身近な活動をしていくなかで、環境問題講座「食べることから考える～」へとつなげていき、有機農業から循環型社会環境へと草の根運動的活動をやっていきたいと考えています。



# 親子で楽しむ環境展

## 今年6月、当連絡会が主催

1月号ニュースでお知らせいたしました当連絡会主催の“環境展”は2回の実行委員会を経て概要が下記のように決まりました。リーダー連絡会らしいものにするためにも、皆様のご意見・ご協力をお願い致します。

1. 開催日時：14年6月9日10時～16時
2. 開催場所：神奈川県民活動サポートセンター  
1階
3. 内容：“親子で楽しむ”に沿った体験型の環境展

- ・ケナフ部会：パネル展示の「ケナフ紙漉き」
- ・エネルギー部会：温暖化防止は省エネから  
エコ紙芝居・エコカルタ・おもしろ電池等。
- ・モニタリング部会：自然・大気・水質等  
誰でも実践しやすい環境調査に参加しましょう。
- ・自然環境部会：子どもが楽しむ  
神奈川の自然と体験
- ・GO3の会：これだけちがう神奈川のごみ分別  
- 37市町村 - 環境にやさしいのはどれ？
- ・ハッピープラザ：我が家で出来る温暖化防止  
- 展示と環境家計簿体験  
(担当 北村 博子)

### 前号記事の訂正とお詫び

当ニュース第24号(前号)記事の一部に誤りがありました。下記の通り訂正してお詫びいたします。

#### 「アンケート調査の集計結果について」

第3頁の「問6 NPO法人格の取得」の1行目の%の数字は誤りで、正しくは下記のとおりです。  
(円グラフの中の%が正しい%の数字です)

『・・・「連絡会としてすぐ取得すべき」が29%、「必要なし」が8%、「時期尚早」が16%、「有志で」が31%、でした。・・・』

#### 「秦野市エコリーダー養成講座」報告

第8頁の最後から2行目の文字のうち、下記[ ]内の文字は誤りで、その文字を削除します。

『・・・が川崎で。しかし、本気で持続可能な循環型の実践活動を中心に・・・』

第9頁の右段上から9行目に文字の欠落があり、下記[ ]内の文字を追加します。

『・・・ることを改めて感じました。しかし、本気で持続可能な循環型社会を目指すなら、・・・』

## 掲示板

### 会費納入のお願い

連絡会の活動はみなさんの会費で支えられています。

13年度の会費未納の方に振替用紙を同封します。至急郵便局でお振込みくださいますよう、お願いいたします。

### 情報提供のお願い

この「掲示板」は皆さんのページです。当連絡会ニュースは奇数月の月末発行予定ですので、翌月・翌々月の活動の情報をお寄せください。

### 編集後記

平成13年度のニュースの最終号をお届けします。

環境科学センターや他の環境団体との交流や活動を深め、連絡会の内部でも部会活動の充実を実感した1年でした。紙面にその一端でもお知らせしたいと、できるだけアンテナを高くして編集会議や取材を重ねてきました。けれども、4名の広報担当者では限度があります、会員の皆さんからの情報をお待ちしています。

広報部長 森 千春

発行人：神奈川県環境学習リーダー連絡会

代表 清水 幸夫

編集人： 広報担当 森 千春

TEL 0468-57-0835 FAX 0468-57-0837

発行日： 2002年3月31日